

● 江戸時代の観光地 ●

信仰と遊びを兼ねた名所めぐりは、江戸庶民の大きな楽しみのひとつでした。神奈川県は当時、江戸から近い観光地として、江の島、金沢八景、大山が人気スポットでした。

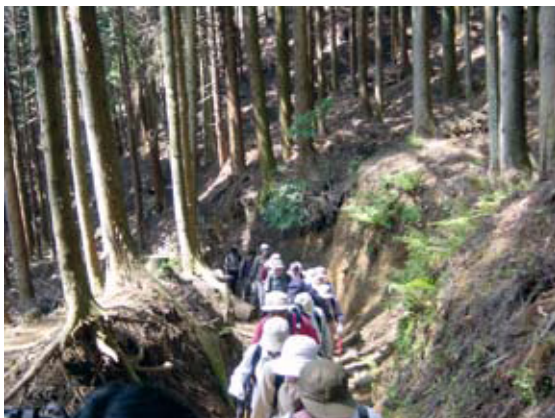
とくに、阿夫利神社や大山寺に参詣する「大山詣」が大流行しました。各地から大山に通じる道がつくられ「大山道」と呼ばれました。

● 登山ブーム ●

深いササやぶにおおわれていた丹沢山地は、昭和の初めまで、山仕事や一部の登山家しか来ない山でした。

しかし、1955年（昭和30年）の「第10回国民体育大会」で登山部門の会場になったことで、登山道や山小屋がつくられました。1965年（昭和40年）に国立公園になると、都会から登山者や観光客がたくさん訪れるようになり、「登山ブーム」が始まりました。

丹沢では多くの人々が山に来ることで登山道が荒れてしまったり、下草が踏みつけられたり、ゴミが捨てられるなど「オーバークラス（多くの人々が集中して利用すること）」による問題が起きています。



オーバークラスにより深く掘られた登山道



「東海道五十三次細見図会」

大山詣は、納め太刀という木太刀を奉納し、その代わりに前に奉納されている木太刀を持ち帰ってお守りとする習わしがあるため、大山詣の人はひと目でわかりました。

（神奈川県立歴史博物館 所蔵）

登山道が荒れるまで



登山者に踏み固められた所には、草が生えなくなる。



雨水などで土が流され、掘れてくる。



ぬかるみを避けて歩くために踏み跡が広がり、さらに掘れてくる。



山を守るために、階段をつける。



階段を避けて歩くために脇が掘れる。さらに登山道が荒れる。